



## 2019年10月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年6月7日

上場会社名 クミアイ化学工業株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4996 URL <http://www.kumiai-chem.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小池好智  
 問合せ先責任者 (役職名) 総務人事部長 (氏名) 中野健史 (TEL) 03-3822-5036  
 四半期報告書提出予定日 2019年6月13日 配当支払開始予定日 2019年7月3日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満四捨五入)

## 1. 2019年10月期第2四半期の連結業績(2018年11月1日～2019年4月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年10月期第2四半期	58,471	7.9	5,607	17.0	6,479	15.6	4,663	4.7
2018年10月期第2四半期	54,179	42.3	4,792	64.4	5,604	23.9	4,454	33.1

(注) 包括利益 2019年10月期第2四半期 2,992百万円(83.3%) 2018年10月期第2四半期 1,632百万円(△54.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年10月期第2四半期	37.22	—
2018年10月期第2四半期	35.34	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年10月期第2四半期	144,703	99,801	63.5
2018年10月期	132,680	97,739	67.9

(参考) 自己資本 2019年10月期第2四半期 91,939百万円 2018年10月期 90,022百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年10月期	—	3.00	—	7.00	10.00
2019年10月期	—	3.00			
2019年10月期(予想)			—	6.00	9.00

(注) 1 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2 2018年10月期の期末配当金には、創立70周年記念配当2円00銭を含めております。

## 3. 2019年10月期の連結業績予想(2018年11月1日～2019年10月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	107,000	10.5	6,100	9.3	8,100	0.3	5,600	19.0	44.71

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2019年10月期 2 Q	133,184,612株	2018年10月期	133,184,612株
2019年10月期 2 Q	7,922,823株	2018年10月期	7,921,665株
2019年10月期 2 Q	125,262,354株	2018年10月期 2 Q	126,011,620株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料の発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	9
(追加情報) .....	9
(セグメント情報等) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費や設備投資など内需が底堅く推移することで緩やかな増加基調はみられるものの、米中間の貿易摩擦問題の長期化によるサプライチェーンへの影響や、中国をはじめとするアジア新興国経済の鈍化が与える輸出への影響が懸念される等、先行き不透明な状況が続いております。

日本の農業を取り巻く状況は、農業従事者の高齢化や耕作放棄地の拡大など依然として多くの問題・課題を抱えており、引き続き厳しい状況となっております。

一方、世界の農薬市場は、アジア、南米等の新興国需要増加を背景に2009年から続いていた増加基調が、近年の経済失速に伴う需要の鈍化で横ばいに推移しております。しかしながら、回復の兆しもみられるなど、潜在的な食料需要は今後人口増加と共に伸びが期待され、中長期的には市場が拡大するとみられております。

このような情勢の下、当社は2017年の旧イハラケミカル工業株式会社との経営統合により、新生「クミアイ化学工業株式会社」として、新中期経営計画「Create the Future」を策定し、前期は初年度計画を達成する形で終了しました。引き続き、統合によるシナジー効果を確実に発現するべく、(1)事業基盤の強化、(2)事業リスクの最小化、(3)成長戦略の推進、(4)コーポレートガバナンスの強化、(5)働き方改革の実践の5つを重要方針として、各部門における課題の達成に取り組んでまいります。

売上高は、主力剤アクシーブの販売拡大により、584億7千1百万円、前年同期比42億9千2百万円(7.9%)の増加となりました。営業利益は、売上高が増加したことにより56億7百万円、前年同期比8億1千5百万円(17.0%)の増加となりました。経常利益は、64億7千9百万円、前年同期比8億7千5百万円(15.6%)の増加となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、46億6千3百万円、前年同期比2億9百万円(4.7%)の増加となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間における海外向け売上高の割合は38.2%となりました。

セグメントの概況につきましては以下の通りです。

セグメント	2018年10月期 第2四半期			2019年10月期 第2四半期			前年同期比	
	売上高	売上高 構成比	営業利益	売上高	売上高 構成比	営業利益	売上高 (増減率 %)	営業利益 (増減率 %)
農薬及び 農業関連事業	百万円 40,608	% 75.0	百万円 4,452	百万円 44,088	% 75.4	百万円 5,122	百万円 3,480 (8.6)	百万円 670 (15.1)
化成品事業	9,200	17.0	681	10,180	17.4	690	979 (10.6)	9 (1.4)
その他	4,370	8.1	292	4,204	7.2	426	△167 (△3.8)	133 (45.6)
計	54,179	100.0	4,792	58,471	100.0	5,607	4,292 (7.9)	815 (17.0)

(注) 1. 前第2四半期連結累計期間のセグメントの営業利益には、調整額として主に各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない一般管理費)634百万円が含まれております。

2. 当第2四半期連結累計期間のセグメントの営業利益には、調整額として主に各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない一般管理費)632百万円が含まれております。

## ① 農薬及び農業関連事業

国内販売部門の農耕地向け製品は、水稲用除草剤「エフィーダ剤」を本格販売開始しましたが、「トップガン剤」等の既存製品の落ち込みにより、水稲用除草剤全体では前年同期を下回りました。また、水稲用箱処理剤は、「ピラキサルト剤」を含む新規混合剤の上市、並びに「イソチアニル剤」を含む混合剤の出荷が伸張したことから、前年同期を上回りました。これらの結果、水稲剤全体では前年同期を上回る結果となりました。園芸向け製品は、「サイアジピル剤」等の殺虫剤が順調に推移した結果、前年同期を上回りました。

特販部門は、自社開発原体の販売において「ファンタジスタ剤」をはじめとする園芸用殺菌剤等が順調に推移し、さらに受託加工及びゴルフ場などの農耕地以外の分野も前年同期を上回りました。

海外販売部門は、基幹製品である畑作用除草剤「アクシーブ剤」において、北米での需要が高まったことから引き続き出荷が伸張し、アルゼンチン向けも順調に売上を伸ばしました。「ノミニー」は、インドをはじめとする主要国でジェネリックの影響による売上減があったものの、ブラジル向けにおいてサトウキビの登熟促進剤としての使用が伸張しました。海外事業全体としては前年同期を大きく上回る結果となりました。

以上の結果、農薬及び農業関連事業の売上高は440億8千8百万円、前年同期比34億8千万円(8.6%)の増加となりました。営業利益は51億2千2百万円、前年同期比6億7千万円(15.1%)の増加となりました。

## ② 化成品事業

化成品事業は、塩素化事業において、連結子会社のIharanikkei Chemical Thailandを核に推し進める、アラミド繊維や高機能樹脂などの原料向けクロロキシレン系化学品が好調に推移しました。

その他の主力事業では、精密化学品事業において、電子材料や高耐熱樹脂などに使用されるビスマレイミド類が市場の需要に合わせ販売が好調となり、防水剤や電子材料などに用いられるウレタン硬化剤事業も、総じて順調に推移しました。

農水産物や電化製品の梱包材、家電製品パーツ、建築用断熱材などの幅広いニーズに応える発泡スチロール事業は、需要増に加え、販売価格の改定により売上高の増加につながりましたが、環境衛生や製紙向け産業薬品事業については前年同期をやや下回りました。

また、受託事業においては、新規受託品の獲得並びに受託販売量の増加により好調な状況となりました。

以上の結果、化成品事業の売上高は101億8千万円、前年同期比9億7千9百万円(10.6%)の増加となりました。営業利益は6億9千万円、前年同期比9百万円(1.4%)の増加となりました。

## ③ その他

その他の主な事業内容は、賃貸事業、発電及び売電事業、建設事業、印刷事業、物流事業、情報サービス事業等であります。

賃貸事業では、引き続き保有資産の有効活用に努め、売上は前年同期並みとなりました。発電及び売電事業では、台風被害の解消により、売上が前年同期を上回りました。建設事業では、受注は順調ながら完成工事までに至らず売上は前年同期をやや下回りました。印刷事業並びに物流事業では、売上は前年同期並みに推移しました。

以上の結果、その他全体の売上高は42億4百万円、前年同期比1億6千7百万円(3.8%)の減少となりました。営業利益は4億2千6百万円、前年同期比1億3千3百万円(45.6%)の増加となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は1,447億3百万円で、前連結会計年度末に比べ120億2千3百万円の増加となりました。これは主に受取手形及び売掛金の増加が、現金及び預金、商品及び製品並びに投資有価証券の減少を上回ったことなどによるものです。

負債は449億2百万円で、前連結会計年度末に比べ99億6千万円の増加となりました。これは主に短期借入金の増加が、未払金の減少を上回ったことなどによるものです。

純資産は998億1百万円、自己資本比率は63.5%、1株当たり純資産は733円98銭となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年10月期の連結業績予想は、2018年10月期の決算発表時(2018年12月14日)の業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	17,729	16,656
受取手形及び売掛金	21,769	36,867
有価証券	30	30
商品及び製品	18,405	16,622
仕掛品	10,032	11,185
原材料及び貯蔵品	4,494	5,315
その他	1,942	1,311
貸倒引当金	△67	△73
流動資産合計	74,334	87,913
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	9,720	9,811
機械装置及び運搬具（純額）	5,327	7,095
土地	12,061	12,097
建設仮勘定	1,932	68
その他（純額）	1,397	1,531
有形固定資産合計	30,438	30,603
無形固定資産	603	733
投資その他の資産		
投資有価証券	24,377	22,820
長期貸付金	309	11
繰延税金資産	885	878
退職給付に係る資産	124	145
その他	1,765	1,744
貸倒引当金	△154	△145
投資その他の資産合計	27,306	25,454
固定資産合計	58,346	56,790
資産合計	132,680	144,703

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年4月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,052	15,908
短期借入金	2,759	12,787
未払金	4,377	3,254
未払法人税等	788	1,969
賞与引当金	1,475	1,194
その他	648	650
流動負債合計	25,099	35,761
固定負債		
長期借入金	970	515
繰延税金負債	3,548	3,319
役員退職慰労引当金	579	560
退職給付に係る負債	4,358	4,284
資産除去債務	39	39
その他	348	424
固定負債合計	9,843	9,141
負債合計	34,942	44,902
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,534	4,534
資本剰余金	35,735	35,735
利益剰余金	54,660	58,446
自己株式	△4,113	△4,114
株主資本合計	90,817	94,602
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	795	751
為替換算調整勘定	△1,438	△3,275
退職給付に係る調整累計額	△152	△138
その他の包括利益累計額合計	△794	△2,663
非支配株主持分	7,717	7,862
純資産合計	97,739	99,801
負債純資産合計	132,680	144,703



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年11月1日 至 2018年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)
売上高	54,179	58,471
売上原価	40,548	43,694
売上総利益	13,631	14,777
販売費及び一般管理費	8,840	9,171
営業利益	4,792	5,607
営業外収益		
受取利息	43	27
受取配当金	159	100
持分法による投資利益	710	716
貸倒引当金戻入額	10	0
その他	149	90
営業外収益合計	1,071	935
営業外費用		
支払利息	21	13
売上割引	28	26
為替差損	194	10
その他	16	13
営業外費用合計	259	63
経常利益	5,604	6,479
特別利益		
固定資産処分益	0	144
投資有価証券売却益	11	—
受取保険金	6	83
抱合せ株式消滅差益	45	—
特別利益合計	63	227
特別損失		
固定資産処分損	57	27
投資有価証券売却損	12	—
ゴルフ会員権売却損	1	—
ゴルフ会員権評価損	4	0
支払補償費	—	23
災害による損失	—	45
事務所移転費用	—	10
特別損失合計	74	105
税金等調整前四半期純利益	5,592	6,601
法人税等	925	1,750
四半期純利益	4,668	4,851
非支配株主に帰属する四半期純利益	214	188
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,454	4,663

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年11月1日 至 2018年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)
四半期純利益	4,668	4,851
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,579	△45
為替換算調整勘定	△69	△1
退職給付に係る調整額	21	14
持分法適用会社に対する持分相当額	△408	△1,827
その他の包括利益合計	△3,036	△1,859
四半期包括利益	1,632	2,992
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,425	2,794
非支配株主に係る四半期包括利益	207	197

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用)

税金費用について、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

## (セグメント情報等)

## I 前第2四半期連結累計期間(自 2017年11月1日 至 2018年4月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

	報告セグメント			その他 (百万円) (注) 1	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円) (注) 3
	農業及び 農業関連 (百万円)	化成品 (百万円)	計 (百万円)				
売上高							
(1)外部顧客への売上高	40,608	9,200	49,808	4,370	54,179	—	54,179
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	1,393	1,393	△1,393	—
計	40,608	9,200	49,808	5,764	55,572	△1,393	54,179
セグメント利益	4,452	681	5,133	292	5,425	△634	4,792

(注) 1 その他の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、賃貸事業、発電及び売電事業、建設業、印刷事業、物流事業、情報サービス事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△634百万円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

	報告セグメント			その他 (百万円) (注) 1	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円) (注) 3
	農業及び 農業関連 (百万円)	化成品 (百万円)	計 (百万円)				
売上高							
(1)外部顧客への売上高	44,088	10,180	54,267	4,204	58,471	—	58,471
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	16	16	1,572	1,588	△1,588	—
計	44,088	10,195	54,283	5,776	60,059	△1,588	58,471
セグメント利益	5,122	690	5,813	426	6,238	△632	5,607

(注) 1 その他の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、賃貸事業、発電及び売電事業、建設業、印刷事業、物流事業、情報サービス事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△632百万円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。